

介護福祉士の取得は 就職と進学…どっちが有利？

「進学は2年、就職は3年、たった1年しかかわらないから、就職した方が得だよ…」って言われることも多いですが、**これは大きな間違いです。**

介護福祉士国家試験の受験日は毎年1月の最終日曜日。

よく間違えやすいのは**就職後3年目に受験できると思ってしまうこと。**

受験資格の要件は「実務経験3年」ですので、実際は就職して3年たったあと…つまり**早くても4年目の1月の受験となります。**



また、2016年度の国家試験から半年以上の短期養成課程「実務者研修」の修了が義務付けられましたが、それまで**毎年約15万人いた受験生が、この要件が加わって約7万人と激減し**、フルに働きながら資格を取ることの大変さが如実に現れた結果となりました。(2019年現在は、養成校の学生が受験するようになって約9万人まで回復しています。)

さらに、現在、介護就職からの国試合格率は約70%。一見すると高いように見えますが、**無資格で介護就職した方の約7割が3年以内に退職する**と言われていて、国家試験を受験できた方は退職しなかった約3割の方。そのうちの約70%が合格…。ということは介護就職から介護福祉士をめざす方全体で計算すると**実質的な合格率(介護福祉士の取得率)は21%程度にとどまります。**

それに対し、**介護福祉士養成校では2年目に国家試験が受験できることはもちろん、合格率も養成校全体で約90%**。退学者もほとんどいませんし、しかも、2020年度の入学生までは経過措置の期間(準備期間)となっていますので、それを考慮すると**介護福祉士の取得率はほぼ100%**です。

なお、介護福祉士養成校を卒業して介護職に就いた方はほとんど退職していません。

※本校では働きながら学校に行く奨学金制度(就職進学)も用意しています。
詳しくは本校ホームページをご覧ください。

